

多く養成したいとの考えから、資格取得のための助成を行ってきたところである。

今後においても、地域の方々の防災士の資格取得を推進するとともに、防災に関する知識や技能を習得させる手段の一つとして、できるだけ多くの職員に資格を取得させていきたいと考えている。

◆渡邊 眞次 議員

【鬼の町づくりの展開について】

問道の駅森の三角ぼうし、日吉産地の鬼のモニュメントの効果および現状について

答モニュメント設置の効果として、両施設の設置後の売上高および入込客数をみると、森の三角ぼうしは、平成27年度の売上高が373,308千円で、設置前の平成26年度と比較すると107%、入込客数は298,118人で、107%となっている。また、平成28年度の売上高は360,968千円で、設置前と比較すると104%、入込客数は283,666人で、102%となっている。平成29年度については、売上高372,865千円で設置前と比較すると103%、入込客数265,927人で、95%となっている。

日吉産地の平成28年度の売上高については、292,874千円で設置前の平成27年度と比較すると115%、入込客数は253,367人で、111%となっている。また、平成29年度の売上高については、302,418千円で、設置前と比較すると119%、入込客数257,373人で、113%となっている。

両施設とも、モニュメント設置前に比べ、各年度の売り上げ実績および入込客数は増加傾向にあるため、設置効果は十分上がっており、現状も効果は継続していると考えている。

問この成果を、2つを結ぶ線(国道320号線)に、さらに面へと広げていくために、今後どのように取り組んでいくのか。

答鬼のモニュメントの設置にあたって、広告塔として町外へPRし、知名度を上げていくことと、住民に対するアピールが原点であった。この効果を一過性で終わらせてはならないことであるが、そのキーワードとなるのは「協働」であると思う。

町内においては、すでに、多くの町民の皆さんが町内各地域で自立した自主組織を構築し、ボランティア活動や慈善活動など、活発な活動を展開し、

福祉、文化、社会教育等の分野で活発な事業を展開していた。鬼北町に暮らす人々が真に望む「町」を作っていくためには、町民参加による協働の町づくりが必要であると確信しているところである。町としては、町民との「協働」による住みよい町づくりを推進するために、町民総ぐるみで取り組むという意識の醸成を図る中で、

町民の皆さんが行政活動に主体的に参加していただき、その意見や要望が町政に反映できるシステムづくりを構築していきたいと考えているところである。

その一つとして、当町では平成28年度より「鬼の町まちづくりプロジェクト支援事業」を実施しているところである。この事業は、鬼北町の地域資源を活かした魅力あるまちづくりを目的とした住民による自主的な事業に対して支援するものである。事業実施場所は、「鬼街道」と銘打つ国道320号沿線の日吉地区、泉地区、近永地区、三島地区で、鬼をテーマにしたイベント等が続々と誕生し、住民の皆さんが自ら自分たちのふるさとの価値に目を向けて、行動を起こし、実施に移されたことは、さらなる効果が拡大していくものと感じている。

今後においても、住民の方々の自主

的な活動に対して可能な限りの支援を行い、住民主体による「鬼のまちづくり」活動が、点ではなく面として、鬼北町全域に広がっていくよう「鬼のまちづくり」関連の事業を推進していきたいと考えている。

【中学校の部活動の指導体制について】

問中学校の部活動の指導者および指導体制の現状と課題について

答中学校の部活動は、学校教育活動の一環として行われ、生徒たちは共通の目標に向かって、互いに認め合い、励まし合い、協力し合いながら活動しており、生徒の自主性・協調性・責任感・連帯感などを育成することに役立っていると考えている。

先日開催された宇和島市・北宇和郡中学校総体においては、両中学校ともに優秀な成績を収めており、生徒たちが一つの目標に向かって、一生懸命取り組んだ成果であると考えている。

また、部活動の指導については、広見・日吉両中学校とも競技経験者の職員が顧問として主に指導を行うとともに、一部の部活動においては、時々、保護者や地域の方々にボランティアで技術指導を行っていた。だが、現時点では、大きな課題はないと学校から報告を受けているところである。